



緑丘トピックス

令和4年度

お別れ号

3月20日(月)発行



Date Midorigaoka High School 北海道伊達緑丘高等学校 TEL/FAX 0142-24-3021



『卒業は出口ではなく、

輝かしい未来への入り口』

校長 保 格 秀 規

令和5年3月1日は、北海道伊達緑丘高等学校において最後の卒業式です。第38期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業後の進路が決まって穏やかな気持ちで迎える人、まだこれから試験を控えている人と、各々様々な境遇であるとは思いますが、卒業式は高校生活最高の晴れの日であります。

皆さんが過ごした高校生活3年間の始まりは、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、恐怖と混乱の中での生活を余儀なくされた時期でした。入学式後すぐ2ヶ月に及ぶ臨時休校、学校再開後はマスクの着用と消毒の徹底、昼食は黙食、接触や密の回避で友達との楽しい語らいの時間の制限、部活動の大会や楽しみにしていた学校祭等の中止、これまで当たり前であった高校生活での授業、部活動、そして学校行事が特別にものになりました。

しかし、そのような状況下でも、やるべきことから目をそらさず、自分の次のステージを目指し勉強に打ち込んだ人。苦しい時だからこそ、思い出の1ページをと進んで新しい学校祭を企画・運営した人。自らを守り、友達を守るために、感染症対策に取り組んでくれた人。私は皆さんの「何事にも真面目に取り組む姿」を見る度に、「困難を乗り越えていく力」の存在を確信し、皆さんに頼もしさを感じていました。

ここで、巣立つ皆さんに論語の言葉を贈ります。

『学びて思わざれば則ちくらし、思いて学ばざれば則ち殆(あやう)し』

「学んだことは、自分で再考し、確実に身につけなければならない。そうしないと、せっかくの勉強も生きてこない。また、自分で考えたことだけを信じるのではなく、その考えが正しいかどうかを検証して確認しないと危険である。」という意味の言葉です。

今、社会はグローバル化、情報化・人工知能AIの急激な進歩、少子高齢化と人口減少、近隣諸国との対立など、私たちを取り巻く環境は大きく変化してきています。皆さんは間違いなく変革の時代、先行き不透明な時代を生きていくことになります。

しかし、いつの時代にも困難があり、試練があり、人は叡智を結集して乗り越えてきました。皆さんには、社会の変化・試練に対応できるよう、本校での3年間で身に付けた確かな学力、豊かな人間性、健康・体力、「困難を乗り越えていく力」があります。

更には、「ボランティア100」を遣り切り、「利他の精神」を身に付けました。人の幸せのために行動するということを続ければ、必ずや社会は皆さんに活躍する場を提供してくれるはずです。伊達緑丘高校で培ったもの活かし、新しい時代に新しい社会を創る、既成概念に囚われず先を見据えて尽力してください。

本校は3月31日で閉校となりますが、伊達緑丘高校という共通の学び舎で共に学び、ここで築かれた人と人の絆はかけがえのない財産です。どうかこれからの人生においても、人との出会いを大切に、多くの人達と望ましい人間関係を築いてください。

卒業は出口ではなく、輝かしい未来への入り口です。期待しております。

♪GIVE ME FIVE!

歌：AKB48 作詞：秋元康 作曲：笹淵大介

友よ 思い出より輝いてる 明日(あす)を信じよう

そう 卒業とは 出口じゃなく 入り口だろう

友よ それぞれの道 進むだけだ

サヨナラを言うな また すぐに会える

卒業式 無事！華やかに終了!!

去る3月1日(水)、本校最後の卒業式が無事終了いたしました。

新聞・テレビ等でご存じの方もいらっしゃると思いますが、最後の卒業式にふさわしく、厳かで、華やかな式となりました。



厳かな卒業証書授与式の後には、サプライズステージとして「ファイターズガール」が登場！
昨年話題になった「きつねダンス」を、会場全員で踊り、大盛り上がりを見せました。



「きつねダンス」の後には、ものまね芸人「りんごちゃん」の登場です。(残念ながら写真撮影ができなかったので掲載できませんでした)



卒業式の前日から、日本テレビ朝の情報番組「ZIP!」の「星のベラベラENGLISH」に登場する「曾野舜太君と星星」も式典に参加してくれました。学校生活の紹介や生徒へのインタビューなど、2日間にわたり学校を紹介していただきました。



先生方より お別れのご挨拶



保 格 秀 規 校 長

《赴任先》

北海道当別高等学校校長

保護者・地域の皆さまには、1年間大変お世話になりました。前任の須藤校長先生の描いた

閉校記念事業を引継ぎ、全ての事業を無事終える事が出来ました。また、最後の卒業生の全ての進路実現に寄り添い、緑高の生活が楽しく思い出に残るよう全教職員で工夫を凝らした学校作りに尽力しました。私達教職員は今、閉校の寂しさを抱えながらも卒業生の明るい姿に逆に励まされ、粛々と最後の閉校事務整理に努めています。

本年卒業する生徒達は、高校入試から高校卒業まで、当たり前の学習や学校行事・部活動が特別になった新型コロナ禍の制限下で過ごしました。しかし、感染対策を施して新しい高校生活を生み出してくれた開拓者でもあります。過去の経験に縛られないで、今出来る事から始める大事を緑高生に教えて貰いました。

高杉晋作辞世の句に「面白き 事もなき世を 面白く すみなすものは 心なりけり」、現代訳に「面白いと思えることのない世の中を面白くする。それを決めるのは自分の気持ちの持ち方次第」を改めて想起しました。私の人生に新たな知見をいただき感謝いたします。

栗 島 はるか 教頭

《赴任先》

北海道伊達開来高等学校教頭

初めての教頭職として、2年間勤務いたしました。この間、保護者・地域の皆さまには本当にお世話になりました。特に、多くの方

が参加してくださった稀府祭と強歩大会は印象深いです。閉校業務に関わる各行事が成功し、生徒たちの輝く笑顔が見られたのは、皆さま方のお力添えがあってこそでした。深く感謝いたします。

外に出て、様々な人と交流することによりどんどん成長する緑高生の姿を通し、地域の先輩方からは大人の関わり方の大切さを学ぶことができました。これからも卒業生の応援団でいていただけると嬉しいです。これまでのご支援ありがとうございました。



上 田 穰 教諭

《赴任先》 定年退職

9年前の着任時に50歳を超えていた私は、「最後の赴任校になるかな」と考えてました(実際そうになりました)。ですから、どのように仕事に打ち込めば、生徒はもち

ろん地域や社会にお役に立てるか、そして長く教職を続けられた「恩返し」を少しでもできればと、一日一日過ごしてきました。

5月の連休には、駐車場からグラウンドへ通ずる小道、そして3年生の教室の前までの数十本の桜が満開となります。綺麗な桜を見ると心も華やきます。

豊かな自然に恵まれ、有珠山、昭和新山、天気の良い時には、羊蹄山まで眺めることもできます。37号線沿いには、海があり、南黄金から陣屋に抜ける海岸道路が私は大好きでした。(やはり毎年、見事な桜が咲き誇ります。)

そんな自然の中で、生徒一人一人が健やかに成長してくれればと、親御様たちの同じ思いを感じつつ、精一杯一生懸命に取り組むことができたのも、生徒の皆様、保護者様そして地域の方々のご理解とご支援あってのものと、感謝至極でございます。大変ありがとうございました。



佐 藤 幸 英 教諭

《赴任先》

北海道伊達開来高等学校
(数学)

伊達緑丘高校の生徒として3年間、教員として8年間、地域の方々には大変お世話になりました。

高校生の頃は、稀府駅前で小学生たちと「だるまさんが転んだ」をしている光景を、近所の方々に微笑ましく眺めていただいた記憶があります。教員として赴任してからは、地域の清掃活動やパークゴルフ、クリスマスのふれあいイベントなど、生徒と地域のみなさんが交流する機会をたくさん経験させていただいて、稀府地域のみなさんの温かさを実感できる年月でした。本当に本当にお世話になりました。ありがとうございました。





宗 像 雅 美 教諭

《赴任先》

北海道伊達開来高等学校
(英語)

保護者の皆様には、学校教育活動の様々な場面で陰日向になり支えていただき、本当にありがとうございました。生徒の卒業、閉校にあたり思い出されるのは、保護者の皆様がいつも学校や生徒のことに高い関心を寄せてくださっていたことです。PTA 役員をいつも快く引き受けてくださり、お仕事終わりでお疲れのところ学校にお越しただいて活動していただいたこと。教職員数の減少でマンパワーが足りない状況があり、平日でも学校行事のお手伝いに積極的に参加していただいたこと。生徒と共に行事を盛り上げてくださり、中には毎回ご夫婦でお手伝いいただいたご家庭もありました。土日の部活動の大会に足を運んでくださったことも、生徒の大きな励みとなりました。お忙しい中、三者面談も高い参加率でご参加いただきました。生徒は男女に関わらず、学校生活で感じたことを保護者とたくさん話し、ご家庭でサポートしていただいていたこともわかりました。日頃からご協力いただいたことは数え切れないほどあり、ここでは全てをご紹介しきれないくらいです。担任として至らない面も数々あったことと思いますが、学校の活動を温かく見守り、応援していただいたことをあらためて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



加 藤 明 人 教諭

《赴任先》

北海道室蘭栄高等学校
(定時制教頭)

北海道伊達緑丘高等学校では、5年間勤務させていただきました。担任をさせていただいた36期生の3年時は、3学年揃って学校生活を送る最後の年となり、その年を盛り上げていこうと意気込むも、コロナ禍初年度で学校行事や部活動のみならず、通常の登校まで制限され、満足のいく高校生活を送らせてあげられなかったことは心残りとなりました。しかし、そのような中で北海道伊達緑丘高等学校の教育活動を支えてくださったのは地域の方々でした。特に「ボランティア100」と「稀府祭」。閉校までに100のボランティアを…と取り組んだボランティア

100の活動では、どのような活動にも温かいお言葉をいただき、多くのご協力・ご支援をいただきました。また、最後の学校祭として開催した「稀府祭」では、天候にも恵まれ、稀府地域をはじめ同窓生や市内・市外からも多くの方々にご協力いただき、活動を盛り上げていただきました。

本校での5年間で、ブラックアウト・コロナ禍・閉校と、これまでの教員生活では起こったことのない出来事を経験し、その度に地域の方々の温かいお心遣いを感じて、改めて学校の教育活動とはその地域あつてのものなのだというを実感させていただきました。これほどまでにご理解・ご協力をいただいた素晴らしい地域にあった本校が閉校を迎えることに、悔しさや寂しさもありますが、これからも北海道伊達緑丘高等学校を忘れずにいていただければ幸いです。

これまで大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



伊 藤 紀 子 教諭

《赴任先》

北海道札幌啓成高等学校
(国語)

伊達緑丘高等学校には、5年間勤務致しました。この5年間のうちに担任をさせていただき、36期卒業生を送り出すことができました。36期は2年後半からコロナ禍で通常とは違う高校生活でした。しかし、その中でなんとか自分達らしい高校生活を送ろうとしている姿や進路実現に向かう姿が思い出されます。そんな36期生が成人した姿を、先日伊達市の広報誌を通して見ることができました。笑顔で晴れの日を迎えた緑で育った生徒達の今後が、輝いていることを確信しました。地域の皆様には、今後とも緑で育った生徒達をあたたく見守っていただければと思います。ご指導ご支援ありがとうございました。



管 野 博 教諭

《赴任先》

北海道室蘭栄高等学校
(保健体育)

8年間、伊達緑丘高校で勤務させていただきました。人生の中で素晴らしい縁を感じることでできた8年間でした。前任校は稚内高校で、その

時の校長から次の赴任校を告げられたとき、母校で働くことができる驚きと喜びに心を弾ませたことを今でも覚えています。

赴任して早々に「伊達武者祭り」山車の行列参加がありました。保護者にも協力いただき、伊達緑丘高校として初めて山車行列に参加しました。これまで沿道で観る側だったのですが、生徒と一緒にかけ声をかけながら踊り、汗だくになりながら練り歩きました。沿道からの大きな声援を受け、学校と地域の繋がりを強く感じたイベントでした。

稀府自治会の方には本当に感謝しております。特に、市澤さん、佐藤さん、盛さん、そして故・小田さんにはいつも暖かく相談にのっていただきました。稀府自治会と高校生のパークゴルフ交流会、餅つき会、運動会など多くのイベントに本校生徒が交流させていただきました。また、看護大学を受験する生徒にも、暖かくサポートをして下さり、合格の後押しとなりました。こうした地域の皆さんとの交流や支えの中で、生徒は間違いなく逞しく大きく育ちました。

私も、地域の皆さんから多くを学ぶ機会をいただきました。そして、素晴らしい出会いが私の財産となっています。これまで、本校にご尽力いただき本当にありがとうございました。



伊勢谷 渚 教諭

《赴任先》

北海道長万部高等学校
(地歴公民)

生徒、保護者の皆様、そして、地域の皆様には大変お世話になりました。伊達緑丘高校では2年間の勤務でしたが、緑丘最後の卒業生の担任もでき、短い間ではありましたが思い出に残る密度の濃い時間を過ごすことができました。また、通常の業務だけでなく、進学校の取り組みや閉校業務などにも携わり、私自身新たな経験と学びを得ることができました。この経験と学びを活かし、次の赴任地でも精進したいと思います。皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



宮川 萌 教諭

《赴任先》

北海道伊達開来高等学校
(理科)

5年間にわたり伊達緑丘高校で理科教員を務めさせていただきました

ました。自然豊かな景観と地域の方々の温かなまなざしに支えられてここまでやってこられました。特に自然科学部の顧問となつてからは牛舎川沿いを散策・調査・実験をすることも多く、その度にたくさんの方々に温かいお声がけをいただきました。そうした小さな交流の積み重ねによって、生徒も伸び伸びと学校生活を過ごすことができるとともに、地域全体で子供たちを育てていくということを私自身も学ばせていただきました。5年間、本当にお世話になりました。



児玉 英之 教諭

《赴任先》

北海道札幌厚別高等学校
(数学)

北見市から赴任し、本校では平成28年から7年間勤務させて

いただきました。定時制から全日制勤務に変わったため、生活リズムの改善、新たな業務に慣れることが大きな課題でしたが、当時の教職員と生徒たちのエネルギーに圧倒され、私の心配事はすぐに消えたのを覚えています。熱心に学習と部活動において力を注ぐ教職員と未知の可能性を秘めた生徒たちとの関わりによって、生徒が成長していく様子が本当によく見える学校だったと思います。私も周りに負けないように一緒に体を動かしたり、とことん学習のサポートをしたりするなどして、多くのことを勉強させていただきました。

伊達緑丘高校で勤務することができ、たくさんの方々に助けられ、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。7年間の経験と教えを生かし、新たに出会う子ども達への教育に良い影響を与えられるよう頑張ります。



吉田 和 弘 教諭

《赴任先》 再任用終了

平成 28 年からの 7 年間、伊達緑丘高校で勤務させていただきました。赴任した一年目野球部の生徒と一緒に学校から稀府駅までの道

路の清掃活動をしました。その時近所の方々が、道路に出て来てくださって、たくさん差し入れをいただきました。野球の大会があるたびに郵便局長から激励していただき、負けるたびに慰めていただきました。特に今年度は学校祭や強歩大会など多くの方に支えていただきました。コロナ禍でなかなか地域の方との交流を深めることができませんでしたが、今年度のような活動をもう少し続けることができれば、高校生達にも地域の大切さをもっと深めることができたのではないかと思います。少子化の影響で閉校になるのはたいへん残念ですが、伊達緑丘高校で学んだ生徒達が、経験したことをそれぞれの地域で還元してくれることと思います。最後まで本当にお世話になりました。ありがとうございました。



立 野 慎一郎 教諭

《赴任先》

北海道虻田高等学校
(保健体育)

令和 2 年(2020 年)に、1 年

間の期限付き教員として伊達緑丘高校に赴任してきました。初めは 1 年という短い期間でしかいることができないと思っていましたが、気づけば 3 年間もの期間を伊達緑丘高校で過ごさせていただきました。そのおかげで、最後の卒業生を見送ることができ、閉校の瞬間まで立ち会うことができました。

伊達緑丘高校での 3 年間は生徒会を任せていただき、閉校に向けた学校行事を生徒とともに協力して運営しました。教職員はもちろん、生徒や保護者の皆様、地域の皆様に支えていただき、生徒にとって最後まで思い出に残るすばらしい学校生活を送ることができたのではないかと思います。これまで様々な場面でご理解、ご協力いただき本当にありがとうございました。



五 浦 典 子

養 護 教 諭

《赴任先》 定年退職

保健室の窓から見える遅咲きの八重桜がとても好きでした。今春は、学校の周りを囲むシンボルツリーとも

言うべき桜の花と共に過ごす生徒たちがいなくなってしまうのかと思うと、少し残念で、寂しい思いがいたします。

この稀府の地で、地域の皆様に愛され、育んでいただいた教職員と生徒たち、一緒にパークゴルフをして、カレーライスを作っていたいただいたこと、学校祭で焼き鳥を焼いていたいただいたこと、家庭部の華道でお花を提供していただいたことなど、たくさんご支援していただいたことが温かい思い出として残っています。

保護者の皆様とは、学校祭や強歩大会等のお手伝いでご一緒させていただき、私たち教職員が気付かない点など、さりげなくフォローしていただきました。そのような姿から伊達緑丘高校の生徒たちの素直で優しい性格は、温かい家庭の中で育まれたものと確信いたしました。

このように、地域の方々や保護者の皆様の多大なるお力添えをいただいたにもかかわらず、閉校を迎えることにはなりましたが、伊達緑丘高校の思い出は、生徒、教職員一同、皆様方からいただいた愛情と共にいつまでも心に残っていくことと思います。今までのご厚情に、深く感謝申し上げます。



兼 田 康 吉

事 務 長

《赴任先》 再任用終了

2 年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

赴任以来、伊達緑丘高校では閉校に向けての準備に追われ、何もできないまま終わってしまったような気がします。

伊達緑丘高校は閉校しますが、その存在は地域に根付いていると確信しています。

これからも、伊達緑丘高校を忘れないでください。よろしくお願いいたします。



藤澤 義 照 事務主任

《赴任先》

北海道苫小牧西高等学校
(事務主任)

1年という短い期間の勤務でありましたが、閉校に係る事務に携わらせていただきました。

私は学校事務の経験が3年目であり力不足でしたが、上司や同僚の支えがあり何とかやってきました。

学校が閉校になり、一緒に勤務した職員ともバラバラになり寂しさを感じますが、新たな勤務先で頑張っていきたいと思います。

今まで有り難うございました。



担当よりご挨拶

長い間ご愛読ありがとうございました。

北海道伊達緑丘高等学校の公式広報誌として、月に一度発行していた「緑丘トピックス」ですが、今回の「さよなら号」をもちまして終了とさせていただきます。

以前までは、月に一度の持ち回りで複数の教員が担当し、学校内で生徒・保護者にのみ発行していたものですが、閉校が決定してからは、一人の担当が近隣の町内会・道の駅・郵便局等に配布し、多くの方に読んでいただくように心懸けました。

配布当初は、前月号がそのままの状態であることが多かったのですが、月を追うごとに残部が減っていき、最近では「足りないのでもう少し置いていって下さい。」とか、「来月号も楽しみにしています。」と言われるようになりました。多くの皆様に支えられ無事最終号を発行できることとなりました。

特に閉校年度の今年一年は、PTA 保護者の皆さんはもちろん、地域の方々のご協力で、学校行事、閉校記念式典など、盛大に開催することができました。最後の一年でしたが、多くの皆様に支えられて学校が成り立っていることを実感いたしました。

伊達緑丘高校教職員は、それぞれの道に分かれて進みますが、この稀府の地で感じたことを決して忘れることはございません。たいへん寂しくなりますが、皆様も健康には十分留意なさってお過ごし下さい。

本当にお世話になりました。

石 司 理恵子 主 事

《赴任先》 任期満了

伊達緑丘高等学校の非常勤の事務職員として 2年間大変お世話になりました。

実は稀府地区とは、浅からぬ縁があり、30年ほど前、稀府小学校で代替養護教諭として半年ほど勤めた経験があります。

郷土の二つの学校で、教員と事務という立場でお仕事できたことは、私の貴重な経験であります。しかしながら、時代の流れとは言え二校ともほぼ同時期に閉校になってしまうのは、地域の灯が消えるようで、ただただ寂しい限りです。

閉校になっても、稀府小の「柏」の老木、緑丘高では校舎横の美しい「桜並木」が、子ども達が集った活気ある日々を思い出させてくれるような気がしています。

稀府地区の皆様方には、地域の学校を支えてくださり心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

